

日本語と韓国語における主語の現れ方について

金 恩 愛*

要旨 本稿**は、日本語の小説とその韓国語版翻訳書を用いて、日本語では現れなかった「名詞+が」「名詞+は」といった形が韓国語では明示的な形で現れる点に注目し、日本語と韓国語における主語の現れ方について考察したものである。

本稿では、便宜上、動作の持ち主として想定できる「名詞+が」と「名詞+は」といった形を「主語」という用語で表した。

日本語と韓国語は、ともにSOV言語に分類され、基本的に「修飾語+被修飾語」の語順を有するなど、多くの文法的な類似性を持つが、〈表現の自然さ〉という観点から両言語を対照した時、表現様相の違いはかなりのものである。

本稿の調査では、日本語と同じ構造をとる韓国語の表現が可能であるにもかかわらず、①日本語では現れなかった主語が韓国語では明示的な形で現れる点、②主語の位置については韓国語は日本語に比べ主語が文頭に現れやすい点などが明らかになった。

キーワード 表現様相、表現の自然さ、同一の場面、主語、語順

1. 研究の目的

日本語と韓国語は、ともにSOV言語に分類され、基本的に「修飾語+被修飾語」の語順を有するなど、多くの文法的な類似性を持つが、〈表現の自然さ〉という観点から両言語を対照した時、表現様相の違いはかなりのものである。梅田・村崎（1982）、生越直樹（2002）金恩愛（2003、2004、2006）では、以下のよう

な表現の違いを指摘している。

(1) いい天気だ。

날씨가 좋다. (lit. 天気がいい)

(2) きれいな顔をしている。

얼굴이 예쁘장하다. (lit. 顔が綺麗だ)

(3) コートの借り上げ料金を安くする。

코트를 싸게 빌리다. (lit. コートを安く借り

*福岡県立大学人間社会学部、講師

**本稿は、韓国日本語学会第28回学術発表会（2013年9月、ハンバツ大学）における口頭発表「日本語と韓国語における主語の現われ方について」をもとに加筆・修正したものである。

る)

(4) 晴れた日の空の美しさ、空の清々しさ、人々の純朴さは～

맑은 날의 아름다운 하늘, 신선한 공기, 사람들의 소박한 마음은～

(lit. 晴れた日の美しい空、新鮮な空気、人々の素朴な心は～)

本研究は、表現のあり方を問う〈表現様相論〉の観点から、日本語と韓国語における主語の現れ方を考察したものである。文法的な類似性を持つ日本語と韓国語は、同じ文法構造を取り得るにもかかわらず、実際の言語資料ではそれぞれ異なる〈表現様相〉で現れる場合が多い。本稿が注目する「主語の現れ方」また両言語の表現様相の違いを特徴づけうる現象であろう。

2. 先行研究

金恩愛 (2004, 2012) は、日本語にまったく現れなかった「名詞+が」といった新たな主語の形が韓国語では現れていることを指摘している。

(5) 暑さのために〈衰弱して〉食べたものを吐いたのだろう。(コンセント/26)

더위 때문에 몸이 약해서 먹을 것을 토해내고 만 것이리라. (コンセント/25)

(lit. 暑さのために体が弱くなって食べたものを～)

(6) 駅に向かって歩き出すと下半身が〈すうすうする〉～ (コンセント/8)

역을 향해 걷고 있자니 하반신으로 바람이 들어 와～ (コンセント/8)

(lit. 駅に向かって歩いていると下半身から風が入ってきて～)

(7) 裕福じゃないから自分で料理する、と恥し気に笑う彼の手には魚屋の袋がぶら下がっていた。〈わくわくした〉。(A2/27)

～생선 가게 이름이 찍힌 봉지가 들려있었다. 가슴이 두근거렸다. (A2Z/29)
(lit. ～魚屋の名前が書かれた袋が持たれていた。胸がときめいた)

(8) 私はいつべん〈かつとして〉、まずそばにあった雑巾を、～ (きらきら/20)

나는 울퉁 화가 치밀어, 우선은 옆에 있던 걸레를～ (반짝반짝/22)

(lit. 私は思わず怒りが込み上げて、まずは横にいた雑巾を～)

(9) 瞬間、〈ドキリとした〉。それは、その佇まいの美しさのせいだった。(Shall/11)

스기야마는 너무나 아름다운 그 모습에 순간적으로 가슴이 철렁했다. (셀/16)

(lit. 杉山はあまりにも美しいその姿に瞬間的に胸がドキリとした)

金龍 (2008) は、対訳を用いた計量調査など、詳細な分析を行っている。(1) 複文における主語と連用節の語順、(2) 引用表現における主語と引用節の語順、(3) 他動詞文における主語と目的語の語順」について、以下のような両言語の違いを指摘している。

日本語は相対的に主語後置の語順を志向

する傾向が強く、逆に韓国語は主語前置の語順を好み、主語後置の語順が回避されることが多い。(金龍、2008：214)

以下は、金龍(2008：121、145、200)からの引用である。下線部の韓国語の直訳は、本稿の執筆者に依るものである。

- (10) 雅美の胸の鼓動が、次第に早くなっていった。雅美の目を見つめて、山下は言った。「わかったか?」『時効を待つ女』
마사미의 심장고동이 점점 빨라졌다. 안마시타는 마사미의 눈을 보고 말했다.
“알았어?”

(lit. 雅美の心臓の鼓動がだんだん早くなった。山下は雅美の目を見つめて言った)

- (11) 亭主が無造作に身を入れているが、三つの貝の身が入りまざって、それぞれの貝の身が元通りの貝殻にはかえらないだろうと、信吾は妙に細かいことに気がついた。『山の音』

주인은 익숙하게 알맹이를 집어 넣고 있는데, 신고는 세 개의 소라 알맹이가 한데 섞여서 제대로 본래 조가비속으로 들어가지는 못할 것이라고, 묘하게도 그런 자세한 데까지 생각이 미치고 있었다.

(lit. 亭主は慣れた様子で身を入れていたが、信吾は三つの貝の身が一箇所に混ざってろくに元の貝の身の中には入らないだろうと、～)

- (12) 「ともかく言われた通りにしろ。おまえの考えていることはよくわかる。だが、そうい

う商売は相手も選んでやれ。いいな、その店は嵌めるなよ」経営者として口に出してはならない、「嵌める」という業界用語を、ボスは使った。『伽羅』

“아무튼 하란 대로 해. 자네가 무슨 꿩꿩인지는 나도 다 알아. 그렇지만 그런 장사일수록 상대를 골라서 해야지. 알겠어? 그 가게는 끌어넣지마.” 보스는, 경영자로서는 입에 답아서는 안 되는 ‘끌어넣다’ 라는 업계 용어를 사용했다.

(lit. ボスは、経営者としては口にしてはならない「嵌める」という業界用語を使った)

金恩愛(2012)は、「日本語と韓国語における直訳できない構造」を論じる中で、主語の出現について、以下のような違いを指摘している。

- (13) 「ねえ、子どもをつくらない?」(唯川恵)
“있잖아, 우리 아이 가질까?” (남주연)
(lit. ねえ、私たち子どもつくろうか)

上記は、日本語には現れなかった主語が韓国語では「우리 (lit. 私たち)」という形で現れる例である。また、以下のように、日本語では主語「私は」が文中で現れるのに対し、韓国語では主語を文頭に置こうとする傾向が指摘されるが、これは、金龍(2008)の主張と一致する。

- (14) 「絶望してわたしは答えた」(石井睦美)
나는 질망하며 대답했다. (고향옥)
(lit. わたしは絶望して答えた)

3. 日本語と韓国語における主語の現れ方

本稿は、〈同一の場面〉を確保するため、日本語の小説とその小説の韓国語版翻訳書を言語資料として用いた。考察の対象とした用例は、日本語の小説20冊を文頭から100文ずつ、全2,000文と、韓国語は日本語2,000文に対応する韓国語翻訳である。作家・翻訳家による個人差という要因を少しでも抑えるために、できるだけ作家・翻訳家の重複は避けた。例文の提示においては、作家名と翻訳家名を表記した。本稿は、上記の言語資料を用いて、日本語と韓国語の表現様相を対照し、両言語における〈主語の現れ方〉を以下のように類型化した。

3.1. 日本語の主語が韓国語でも同じ語順で現れる場合

日本語の主語が「結子は」「父が」「わたしは」のように、主語にかかる修飾要素がなく、主語で文が始まる場合、韓国語でも日本語と同じ語順で現れやすい傾向が認められる。

- (15) 結子はデザイン事務所に勤めている。(唯川恵)

유코는 디자인 사무실에서 일하고 있다.
(남주연)

(lit. 結子はデザイン事務所で働いている)

- (16) 父がアキの両親に言った。(片山恭一)

아버지가 아키의 부모님에게 말했다.
(안중식)

(lit. 父がアキの両親に言った)

- (17) わたしはやっとそう言った。(石井睦美)

나는 겨우 그렇게 대답했다.(고향옥)

(lit. 父がアキの両親に言った)

- (18) 巧一は雨で濡れてきた眼鏡を指でこすりながら悪態をついた。(恩田陸)

고이치는 비에 젖은 안경을 손가락으로 문지르면서 투덜댔다.(권영주)

(lit. 巧一は雨に濡れた眼鏡を指でこすりながら～)

3.2. 日本語の主語が韓国語では前に現れる場合

これは、「韓国語は主語前置の語順が好まれるのに対して日本語では主語後置の語順が好まれる」という金龍(2008)の主張と、「韓国語では主語を文頭に置こうとする傾向」を指摘した金恩愛(2012)と一致するタイプである。

- (19) 着替えを済ますと、結子は冷蔵庫の中にある野菜のサラダと、銀鱈の切り身で夕食を済ました。(唯川恵)

유코는 옷을 갈아입고 나서 냉장고에 있는 유기농 야채샐러드와 은대구 한 토막으로 저녁식사를 마쳤다.(남주연)

(lit. 結子は服を着替えてから冷蔵庫にある有機野菜のサラダと～)

- (20) 運転席にはドーナツ型のクッションが敷いてあり、九十九さんはくねくね腰を動かして座り位置を何度かかえたりしている。)大道珠貴)

쓰쿠모씨는 도넛모양 방석이 깔린 운전석에서 이리저리 허리를 움직이며 자꾸만 자리를 고쳐 앉는다.(김성기)

(lit. ツクモさんはドーナツ型のクッションが敷いてある運転席で～)

(21) 何ごともつつみかくさず、タブーをつくら
ず、できるだけすべてのことを分かち合
おう、というモットーのもとにあたしたちは
家庭をいとなんでいる。(角田光代)

우리 식구들은 아무 것도 숨기 지않
고, 금기사항을 만들지않고, 될 수 있는
대로 모든 일을 같이 나누자는 가훈
에 따라 살고 있다.(임희선)

(lit. 私たち家族は何事もつつみかくさず、
禁忌事項を作らず、～)

(22) つまらなそうにパパは言い、ホットプレ
ートを食卓に設置する。(角田光代)

아빠는 따분해하는 말투로 말하며 전
기프라이팬을 식탁에 올려놓았다.(임희
선)

(lit. パパはつまらなそうな口ぶりで言っ
て～)

(23) すると、思いのほか鋭く厳しい声で、翔子
が言った。(宮部みゆき)

그때 쇼코가 뜻밖에 날카로운 목소리
로 단호하게 말했다.(이규원)

(lit. その時翔子が思いのほか鋭い声で断固
と言った)

(24) 仕様がなくぼくは立ち上がった。(山田詠美)

나는 할 수 없이 일어섰다.(양역관)

(lit. 私は仕方なく立ち上がった)

3.3. 日本語にはなかった主語が韓国語では明 示的な形で現れる場合

このタイプについて、金龍(2008)では注
目されていないが、金恩愛(2004、2012)では、
日本語には現れなかった主語が韓国語では明示

的な形で現れる例として指摘されている。

以下は、今回の調査で得られた例の一部であ
る。

(25) 小さい時からものを作るのが好きだった。
(唯川恵)

유코는 어린시절부터 뭔가 만드는 것
을 좋아했다.(남주연)

(lit. 結子は小さい時から何かを作るのが好
きだった)

(26) 最後にぼくに向けた顔は、怒っているだけ
ではなく、～(重松清)

그녀가 내게 마지막을 보인 것은 단
순히 화가난 것만이 아닌,～(김훈아)

(lit. 彼女がぼくに最後を見せたのは～)

(27) 「どうして別れなきゃならないんだよ」(山
本文緒)

“우리가 왜 헤어져야 하죠?”(구혜영)

(lit. 私たちが どうして別れなければならな
いんですか)

(28) そう予感するような季節の中にいた。(島本
理生)

모두가 그렇게 예감하는 계절속에 있
었다.(김난주)

(lit. みんながそう予感する季節の中にいた)

(29) ようやく思い出せた。(筒井ともみ)

다미코는 그제야겨우생각이었다.(한성례)

(lit. タミ子はようやく思い出せた)

(30) 一度だけ店内をぐるりと見回し、～(本多
孝好)

고가네이 씨는 가게 안을 휩 둘러보
았을 뿐 ~ (양억관)
(lit. 私たちが どうして別れなければなら
ないんですか)

(31) 朝、目が覚めると泣いていた。(片山恭一)
아침에 눈을 떠서 나는 또 울었다.
(안중식)
(lit. 朝目が冷めてぼくはまた泣いた)

主語の出現について、文法的には日本語も韓
国語も主語は必要な時だけ提示すればよいとさ
れているが、同一の場面が与えられた時、〈表
現の自然さ〉という観点から見たとき、日本語
と韓国語とでは、主語の現れ方が異なる。

(32) 中程に押しやられると、降りる時にいやな
顔をされるので、ドア付近で~ (唯川恵)
차량 중간으로 밀려나면 내릴 때남들이
싫은 얼굴을 하기 때문에 ~ (남주연)
(lit. 車両の中程に押しやられると、降りる
時他の人が嫌な顔をするので~)

(33) 求められているのは、ぼくが与える快樂で
あり、ぼく自身ではない。(山田詠美)
그녀가 원하는 건 내가 주는 쾌락이
지 나 자신이 아니다。(김옥희)
(lit. 彼女が望むのはぼくが与える快樂であ
り~)

(34) 三ヶ月付き合ってきた女の子に言われた。
(重松清)
3개월 동안 사귀 여자친구가 말했다.
(김훈아)
(lit. 三ヶ月間付き合った彼女が言った)

上記の日本語には「される」「求められてい
る」「言われた」といった受動表現が含まれて
いる。受動表現と能動表現をめぐっては、日本
語は韓国語に比べて受動表現がより多用され
ると指摘されるが、「主語の現れ方」という観点
から上記の例を捉え直すと、韓国語は日本語に
比べて主語を明示化しようとする傾向が強いと
も解釈できよう。以下は、日本語の「名詞+の
+名詞」が、韓国語では「名詞+が+述語」で
現れる例である。

(35) それとも私の空耳? (山田邦子)
아니면 내가 헛들은 건가? (김난주)
(lit. それとも私が間違っ
て聞いたのか)

(36) 「とにかく、あなた、オトコのくせに細か
すぎるわけ」(重松清)
“아무튼 당신은 남자가 너무 꼼꼼해”
(김훈아)
(lit.とにかくあなたはオトコがあまりにも細
かすぎる)

(37) ジュンの外人巨乳マニアは有名だ。(石田衣
良)
준은 서양여자의 커다란 유방을 미칠
듯이 좋아한다。(양억관)
(lit. ジュンは西洋の女の大きな~)

慎重なアプローチは必要だとは思うが、上記
のような例もまた「韓国語は日本語に比べ、主
語を明示化しようとする傾向が強い」ことにつ
ながるであろう。

上記に挙げた例の多くは、日本語と同じ構造
をとる韓国語が可能である。それは、文法的で
あり、可能性として十分ありうる表現、現れう

る表現である。にもかかわらず、実際現れた韓国語は日本語とは異なる表現構造を選択している。

文法的な観点から両言語を対照すると日本語と韓国語における主語の現れ方は酷似しているとも言えるが、表現様相の観点から両言語を対照してみるとかなりの違いが認められる。

本稿は、日本語に比べ、韓国語は主語を文頭に置こうとする傾向がより強い点、文を構成する際、韓国語は日本語に比べ、主語をより明示的な形で表そうとする点などを明らかにした。

今後は、計量調査などを通してそれぞれの類型がどのぐらいの分布を示すのか、また、どのような原因で主語をめぐる表現の違いが現れるか、可能な限りその条件についても明らかにしていきたい。

【引用文献】

- 林八龍 (1995) 「日本語と韓国語における表現構造の対照考察—日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』東京：明治書院
- 梅田博之・村崎恭子 (1982) 「現代朝鮮語の文構造」『講座日本語学10 外国語との対照Ⅰ』48号 東京：明治書院。
- 生越直樹 (2002) 「日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方「きれいな花!」タイプの文を中心に」『シリーズ言語科学4 対照言語学』生越直樹編 東京：東京大学出版会
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」第188輯. 天理：朝鮮学報
- 金恩愛 (2004) 「日本語の「する」は韓国語でいかに現れるか—表現様相の対称構造と非対称構造—」東京外国語大学大学院 修士論文

- 金恩愛 (2006) 「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究—」『日本語教育』129号 東京：日本語教育学会
- 金恩愛 (2012) 「日本語と韓国語における「直訳できない構造」について」平成23年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)) 研究成果報告書
- 金龍 (2008) 『日本語と韓国語における語順の対照研究』ソウル：역락

【引用した言語資料】

- 石井睦美(2001)『卵と小麦粉それからマドレーヌ』東京：BL出版
- 이시이무쓰미(2005) “달걀과 밀가루 그리고 마들렌” 서울：우리교육 번역자：고향옥
- 石田衣良(2003) 『LAST』東京：講談社
- 이시다 이라(2004) “LAST” 서울：작가 정신 번역자：양익관
- 江國香織(1994) 『きらきらひかる』東京：新潮社
- 에쿠니 가오리(2001) “반짝반짝 빛나는” 서울：소담출판사 번역자：김난주
- 恩田陸(2001) 『三月は深き紅の淵を』東京：講談社
- 은다 리쿠(2006) “삼월은 붉은 구렁을” 서울：대한교과서, 북폴리오 번역자：권영주
- 角田光代(2002) 『空中庭園』東京：文藝春秋
- 가쿠타 미즈요(2005) “공중정원” 서울：지식여행 번역자：임희선
- 片山恭一(2001) 『世界の中心で、愛をさけぶ』東京：小学館
- 카타야마 코이치(2003) “세상의 중심에서 사랑을 외치다” 서울：지식여행 번역자：안중식
- 重松清(2002) 『日曜日の夕刊』東京：新潮社
- 시게마즈 키요시(2004) “일요일의 석간” 서울：소담출판사 번역자：김훈아
- 島本理生(2004) 『シルエット』東京：講談社

시마모토 리오(2004) “실루엣” 서울 : 시공사 번역자 :
김난주

유리카와 케이(2004) “백만 번의 변명” 서울 : 영림
카디널 번역자 : 남주연

周防正行(1996) 『Shall we ダンス?』 東京 : 幻冬舎
수오 마사유키(2000) “셀위덴스” 서울 : 동아시아 번역
자 : 한성봉

大道珠貴(2003) 『しょっぱいドライブ』 東京 : 文藝春秋
다이도 다마키(2004) “이렇게 제제한 로맨스” 서
울 : 황금가지 번역자 : 김성기

田口ランディ(2000) 『コンセント』 東京 : 幻冬舎文庫
다구치 란디(2001) “콘센트” 서울 : 한솥출판사 번역
자 : 오희옥

筒井ともみ(2007) 『食べる女』 東京 : 新潮文庫
즈쯔이 토모미(2004) “먹는 여자” 서울 : 이룸 번역
자 : 한성례

本多孝好(2007) 『真夜中の五分前』 東京 : 新潮文庫
혼다 다카요시(2006) “자정 5분 전” 서울 : 이젠 미디
어 번역자 : 양익관

宮部みゆき(1998) 『理由』 東京 : 朝日新聞社
미야베 미유키(2005) “이유” 서울 : 청어람미디어 번
역자 : 이규원

山田詠美(1996) 『ぼくは勉強ができない』 東京 : 新潮社
야마다 에이미(2004) “나는 공부를 못해” 서울 : 작가
정신 번역자 : 양익관

山田詠美(2000) 『A2Z』 東京 : 講談社
야마다 에이미(2000) “A2Z” 서울 : 태동출판사 번역자 :
이유정

山田邦子(2001) 『オバサン・レディボディブレード』 東
京 : 太田出版
야마다 구니코(2004) “아가씨와 아줌마 사이” 서울 :
큰나무 번역자 : 김난주

山本文緒(1996) 『ブルーもしくはブルー』 東京 : 角川書
店

야마모토 후미오(2004) “블루 혹은 블루” 서울 : 베
텔스만 코리아 번역자 : 구혜영

唯川恵(2003) 『100万回の言い訳』 東京 : 新潮社